

はっつあんといっしょに

エコなおやつを考えよう

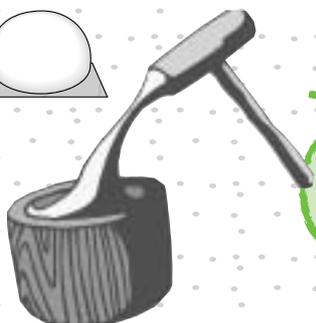
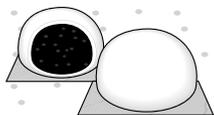
さつまいもは、さつまはん
(今の鹿児島県)で植えはじめた
から、この名前がつけました。

さつまいも



古くから、日本人にがかわりの
ある木の実です。昔話の『さるかに
合せん』では、いろりに入ったり
がポンとはじけ、いじわるなサルは
ヤケドでアッチッチー。

さくらもも



うすときねでついた、
もちにあんを包んだ大福。
冬は焼き大福が流行。

大福

さくらもも

との様の植えた、さくらなみ木。
それを見た男が、その葉っぱを塩
づけにしてみたことで、生まれま
した。

江戸のおやつは手作りおやつ

おやつは、江戸時代の「八どき」(今の午後2時から午後4時)に食べる間食のことでした。江戸時代の中ごろには、これまで、少しの人しか手に入らなかったさとうが広く使われ、まんじゅう、ようかんなどが店で売られるようになりました。あめ売りは、おもしろいかつこうをして、歌ったり、おどったりしながら、道を売り歩いていました。

リサイクル 竹の皮

江戸のまちには、さまざまなものを売る人たちが通りを行きかいました。朝早くには、みそしるに入れるシジミやなっとう。夏になると、「ひゃっこい、ひゃっこい」と冷たい井戸水にさとうを入れた水。ペットとして人気の「きんぎょえ、きんぎょっ」の金魚。家の近くまで売りに来ていたから、むだな包みはいりませんでした。

店で買うときは、まんじゅうや大福から、うなぎまで、竹の皮が大活やく。ラップのかわりです。でも、今のラップとちがって、ちゃんと土にかえります。

